

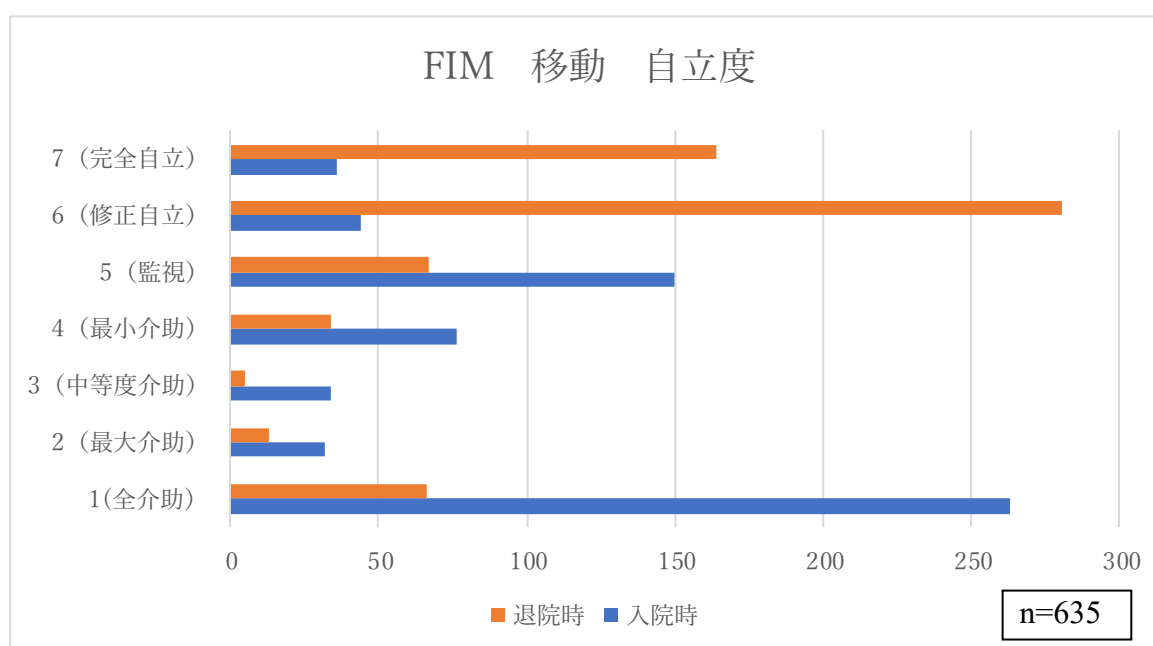
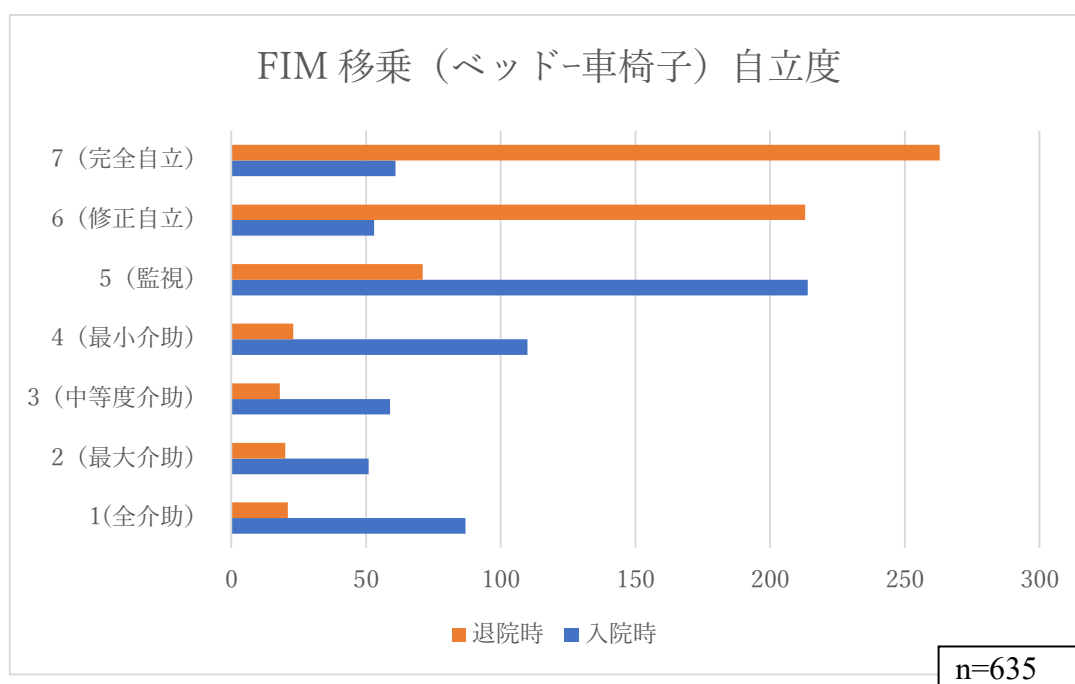
## 2024 年度 理学療法部門 臨床指標

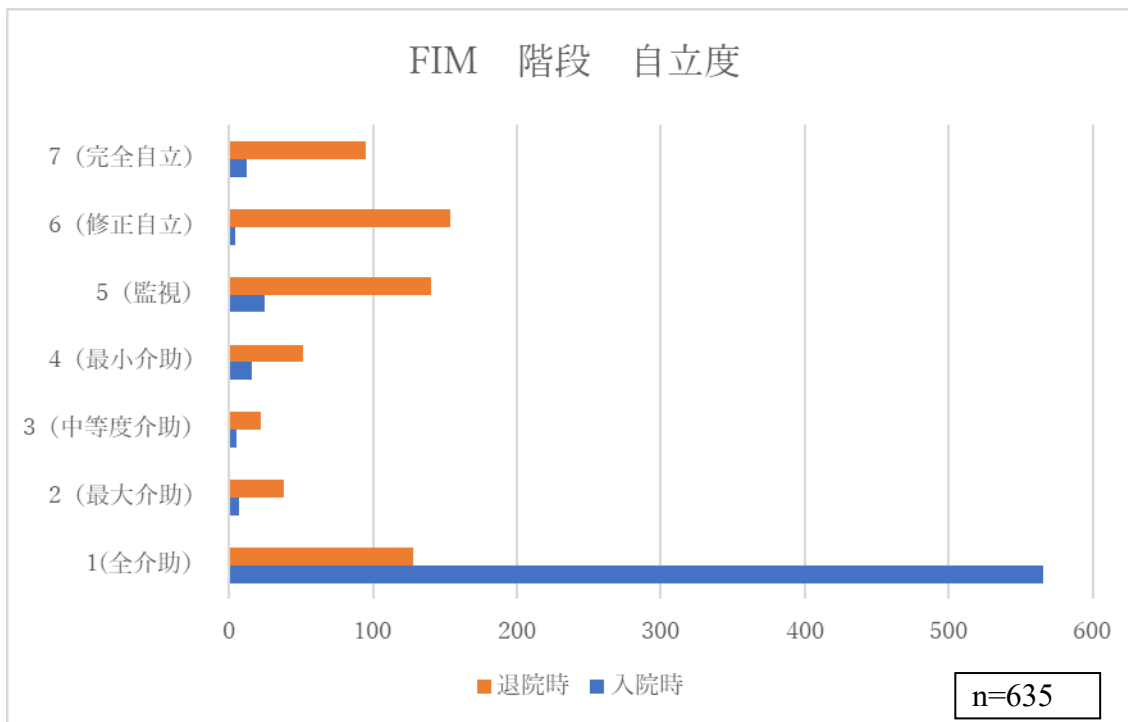
FIMとは、機能的自立度評価法（Functional Independence Measure）の略で、食事や着替え・歩行などの日常生活動作における介助量を評価する指標です。

評価項目は、18項目あり（運動13項目・認知項目5項目）を7段階で評価し、点数が高いほど自立度が高い（介助が少ない）ことを示します。

信頼性と妥当性が高く、リハビリの効果判定や介助量の把握に広く用いられています。

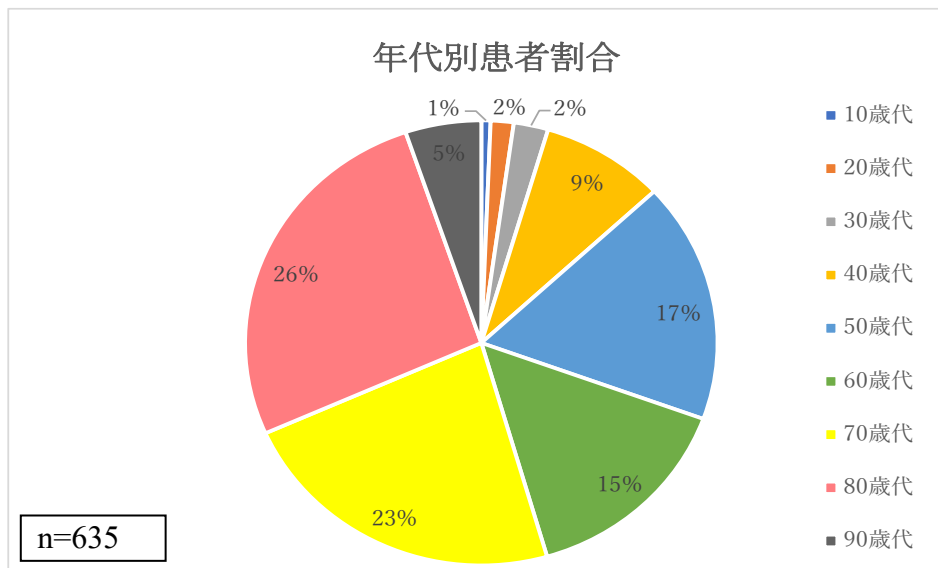
当院、理学療法部門では、特にFIMの移動項目（移乗・移動・階段）を中心に効果判定を行っています。結果は以下の通りになります。





FIMの利得（退院時FIM－入院時FIM）は、移乗項目において平均1.67点、移動項目において平均2.23点、階段項目において2.79点と改善しました。

理学療法部門 2024年度の年代別患者割合は70～80歳代が約49%であり、10～50歳代で約46%であった。





# 東京都リハビリテーション病院

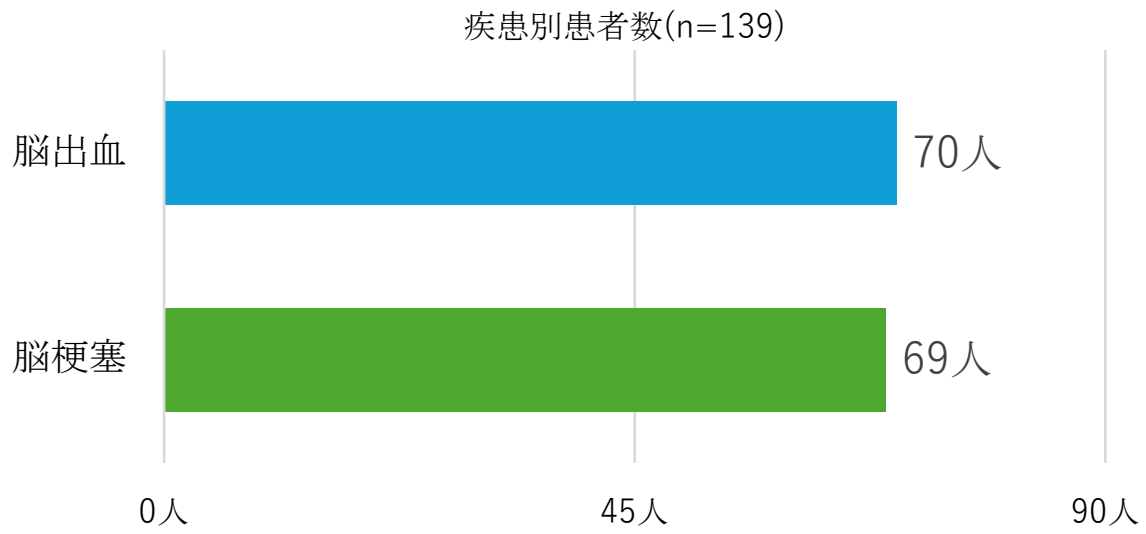
## 脳卒中 臨床指標

\* 脳卒中再発者、および運動機能に影響を及ぼす

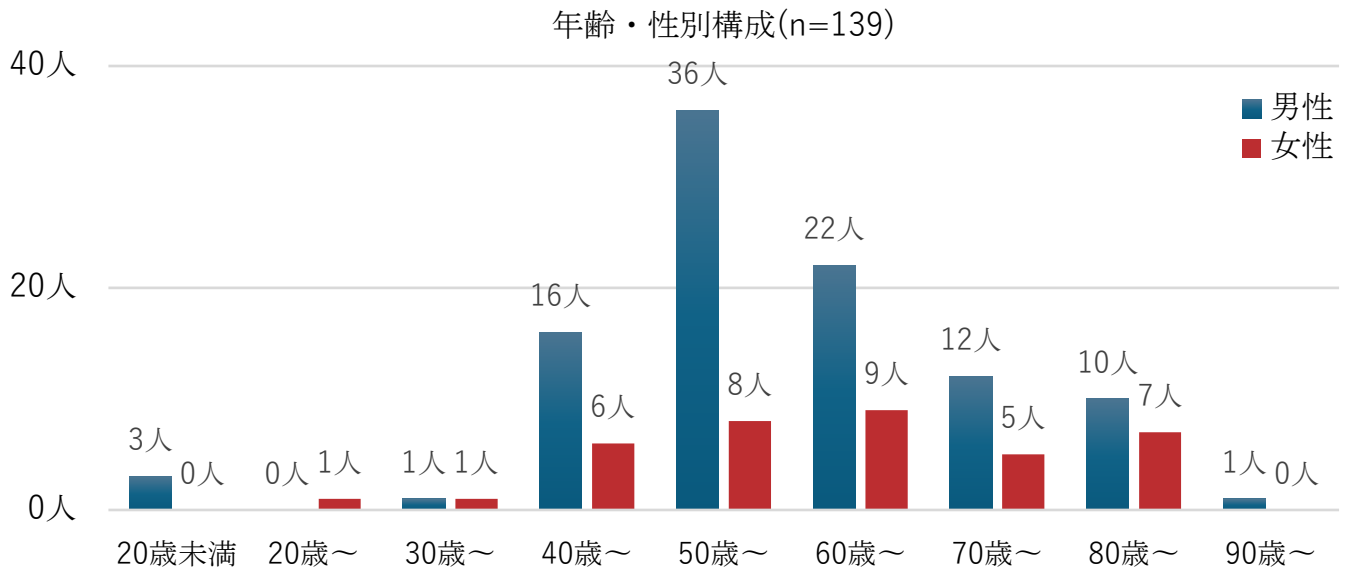
既往歴・合併症を有する者を除く

リハビリテーションセンター 理学療法部門 2023 年

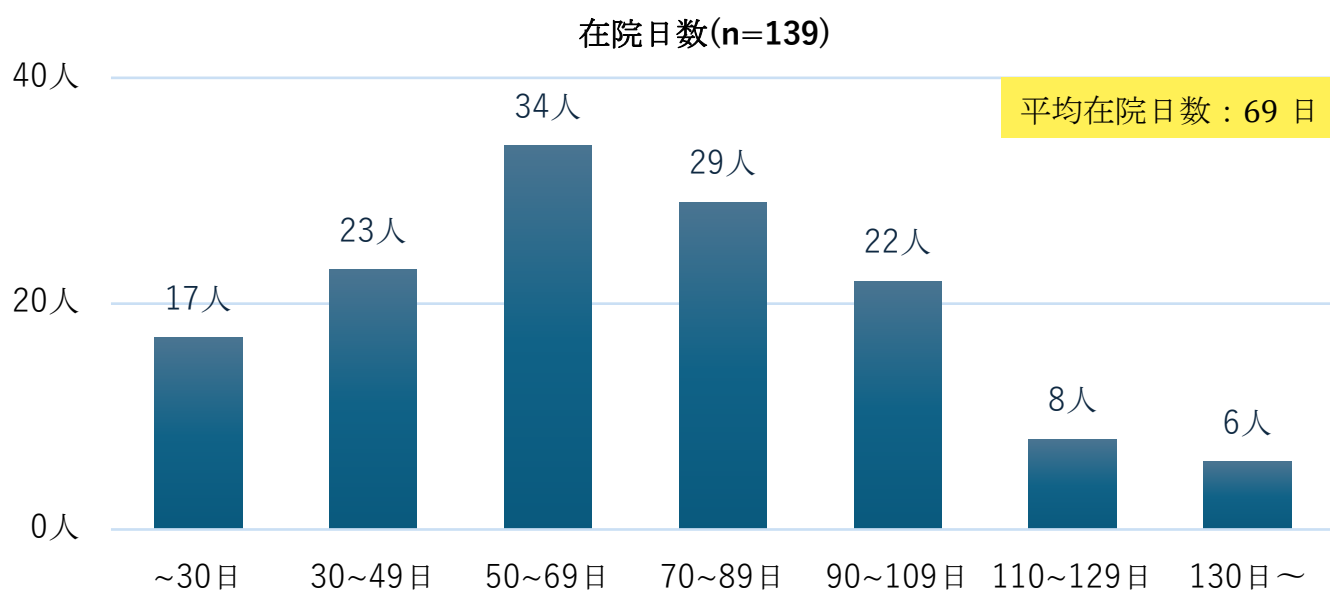
## 1. 疾患別患者数



## 2. 年齢・性別構成

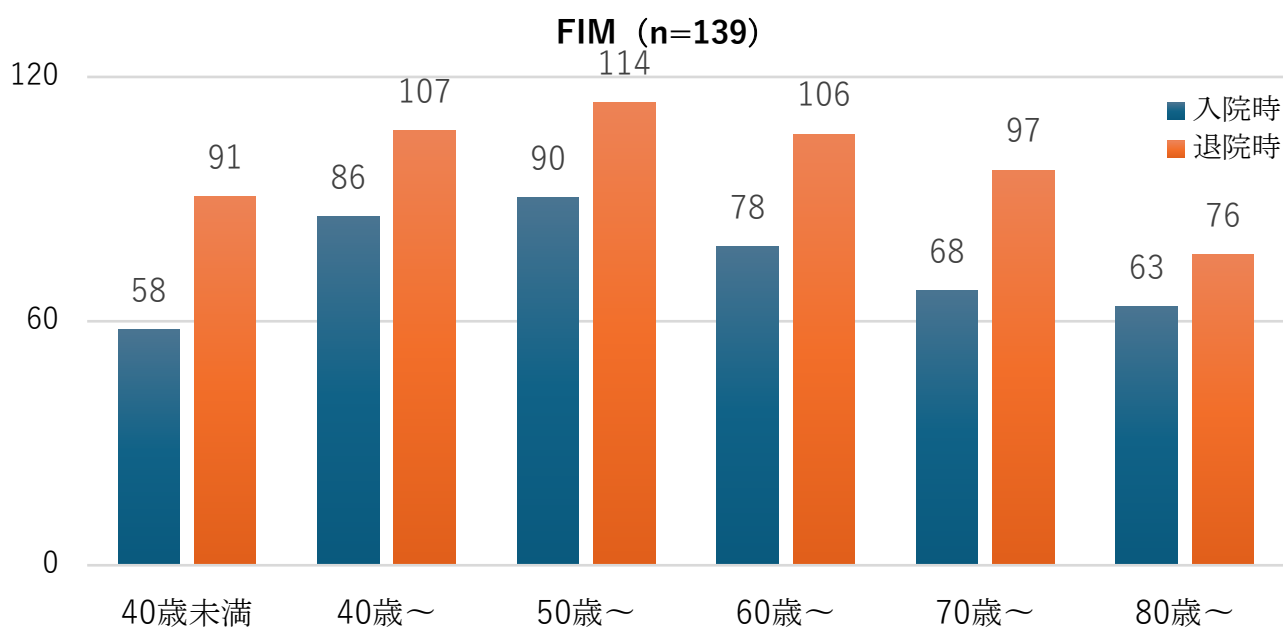


### 3. 在院日数

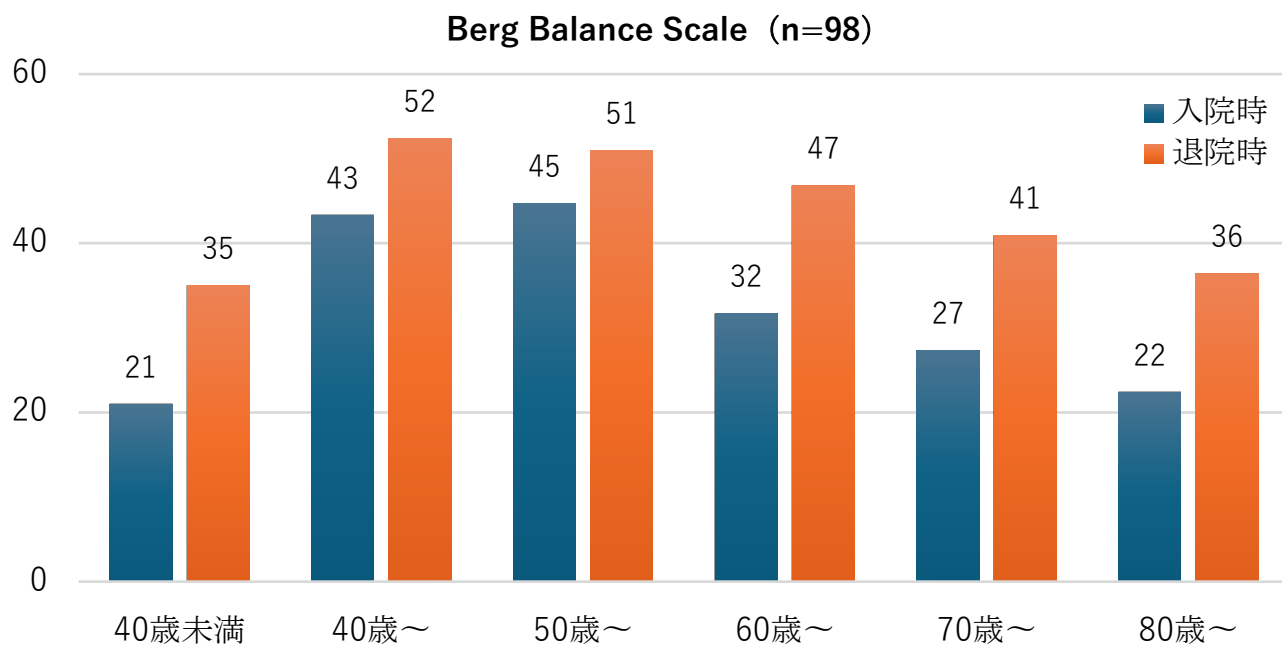


### 4. 日常生活の改善

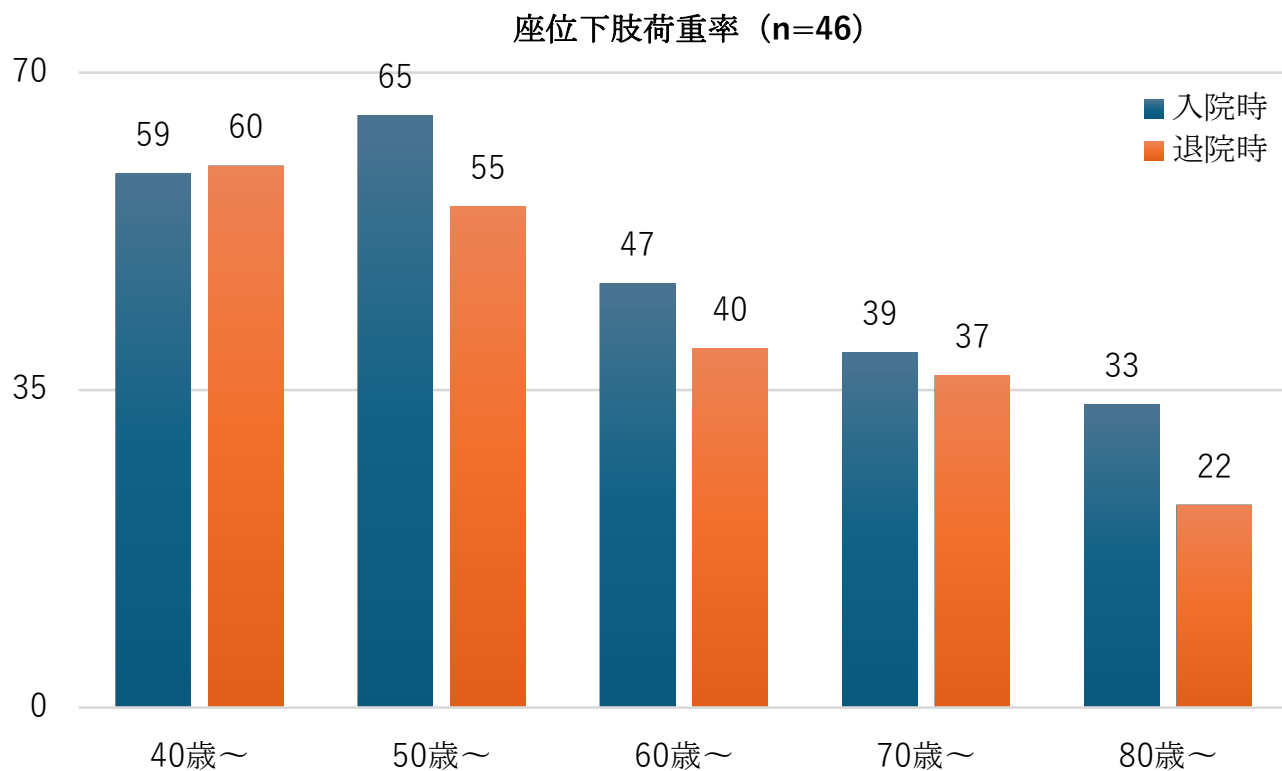
日常生活の自立度の指標である FIM (Functional Independence Measure) の値。



## 5. バランス能力

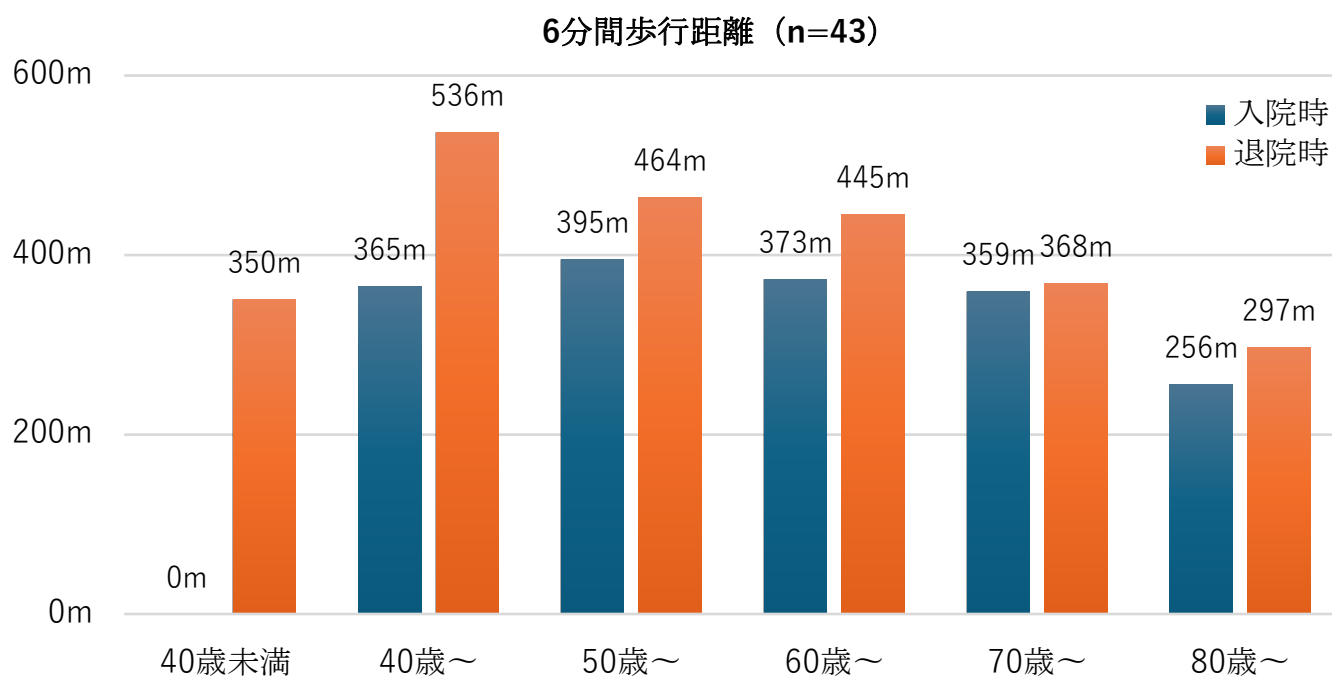


## 6. 筋力 (座位下肢荷重率)



## 7.歩行能力の改善

6分間で歩ける距離を計測した。



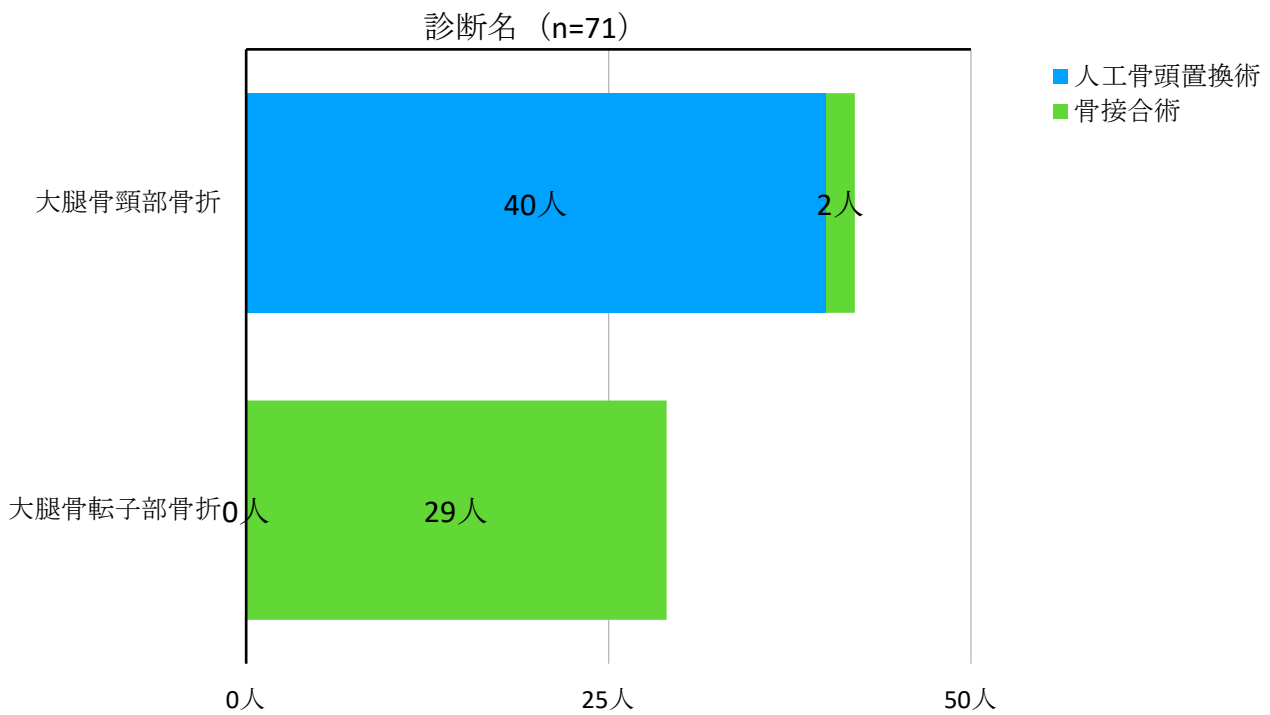


# 東京都リハビリテーション病院

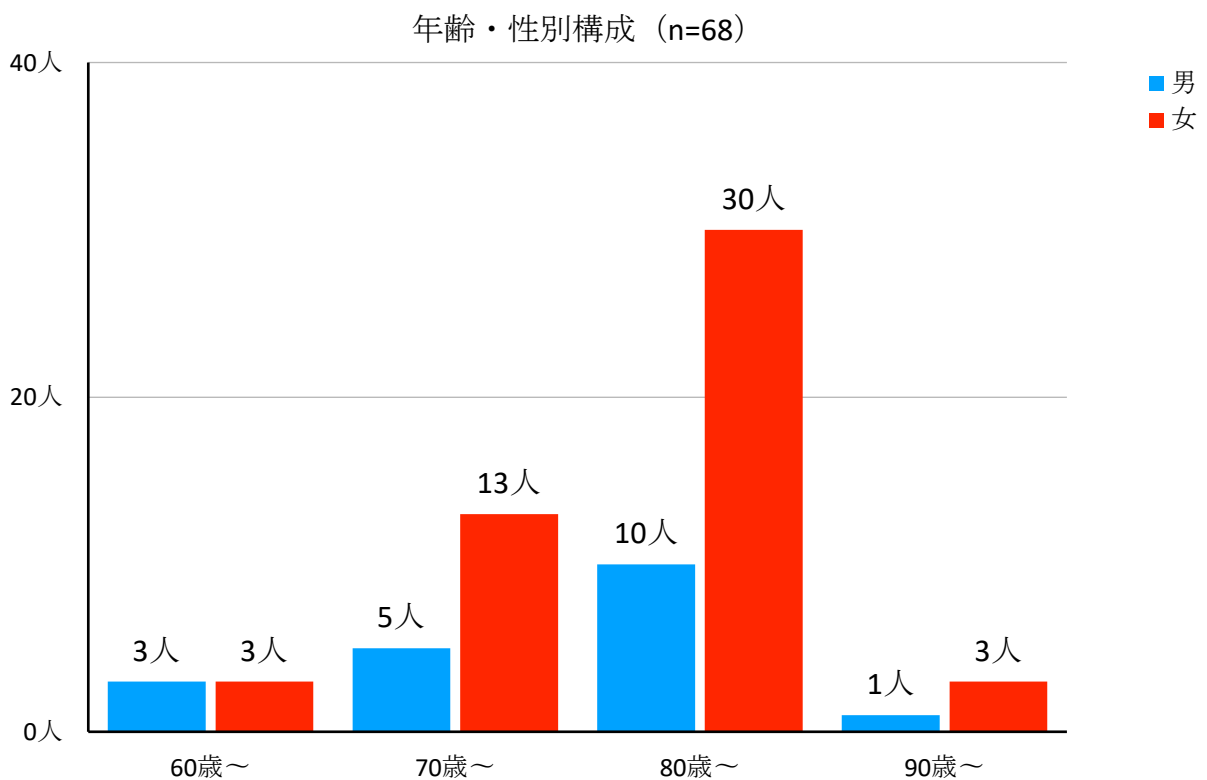
大腿骨近位部骨折 臨床指標

一般病棟 理学療法部門 2020年・2021年

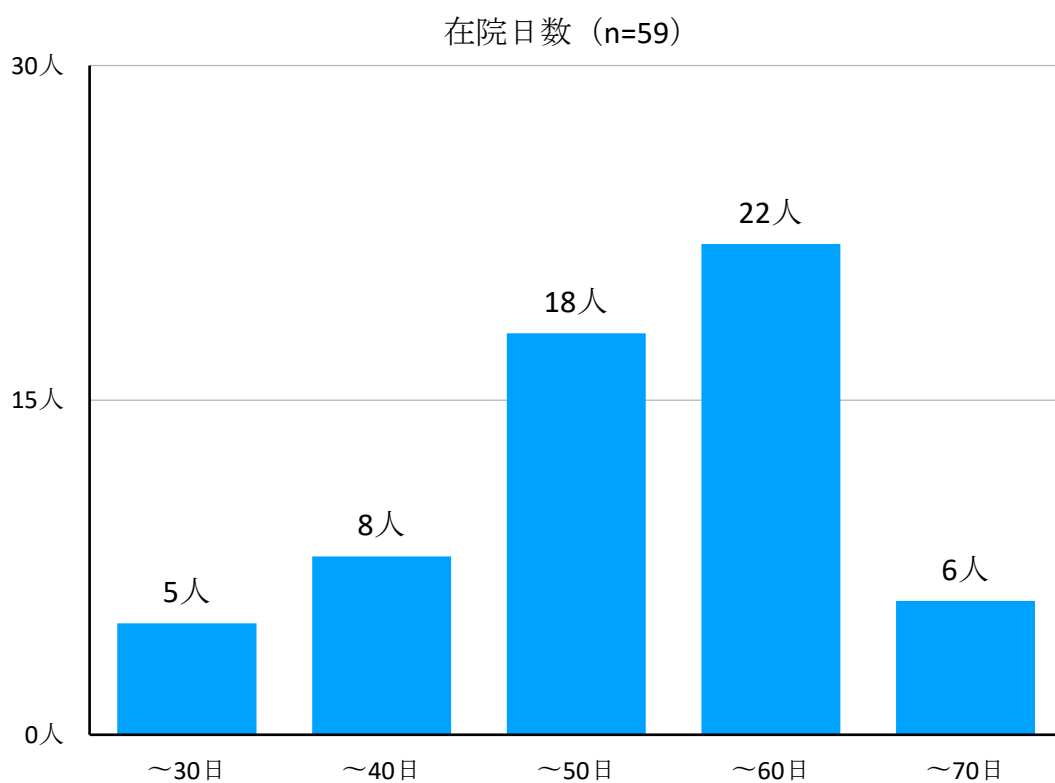
## 1. 疾患別患者数



## 2. 年齢・性別構成

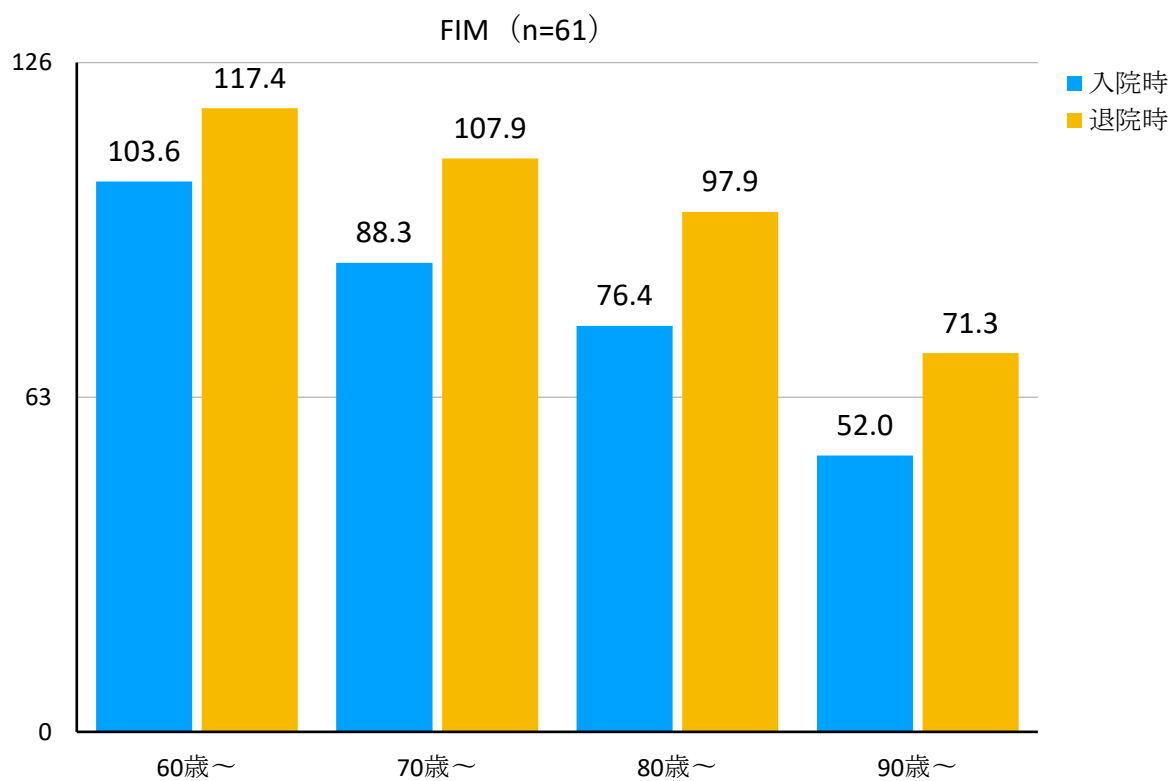


### 3. 在院日数



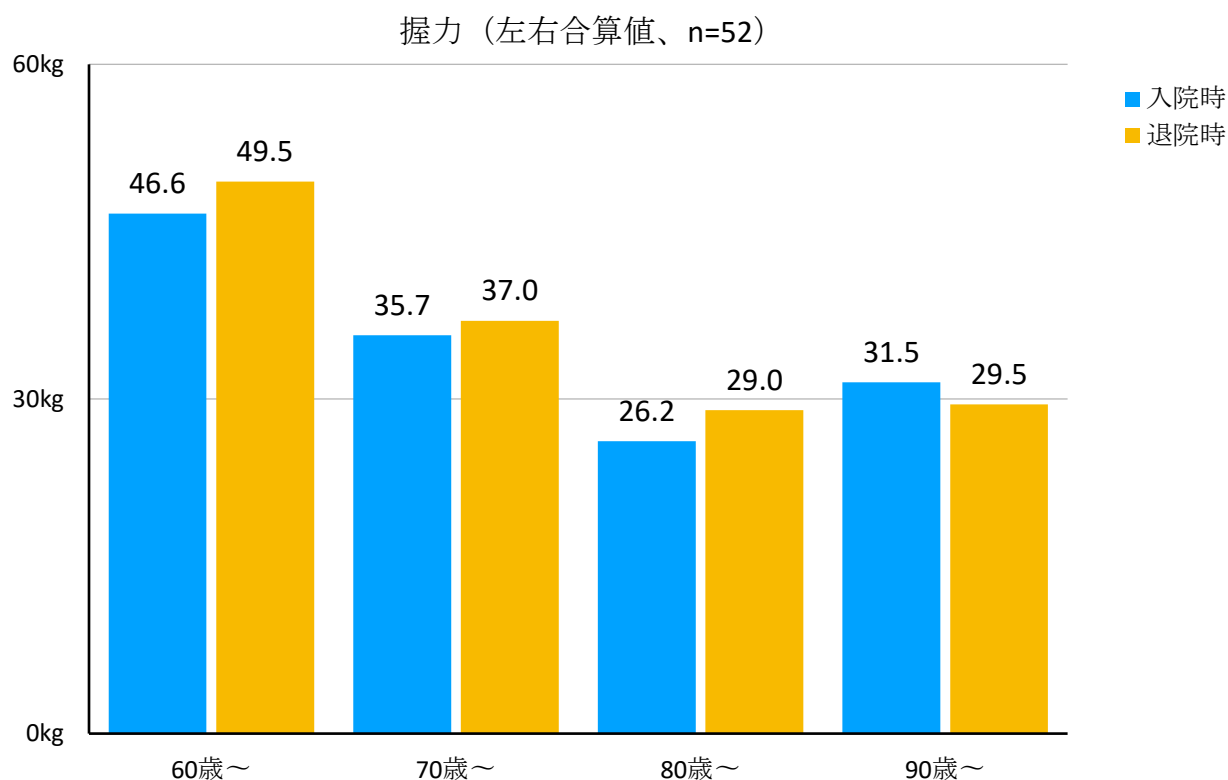
### 4. 日常生活の改善

日常生活の自立度の指標である FIM (Functional Independence Measure) の値。126 点満点で評価され、退院時には平均で 20.2 点 改善した。



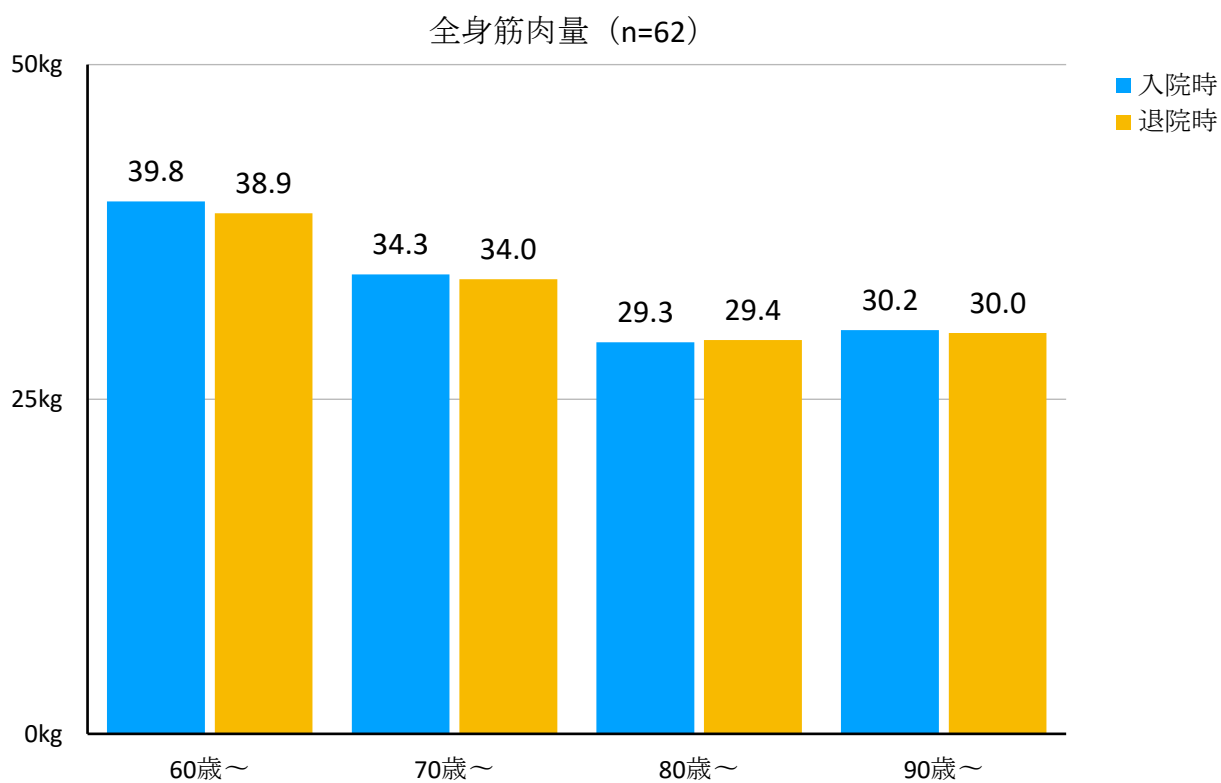
## 5. 握力の変化

握力計を用いて計測し、左右の握力を合算した。



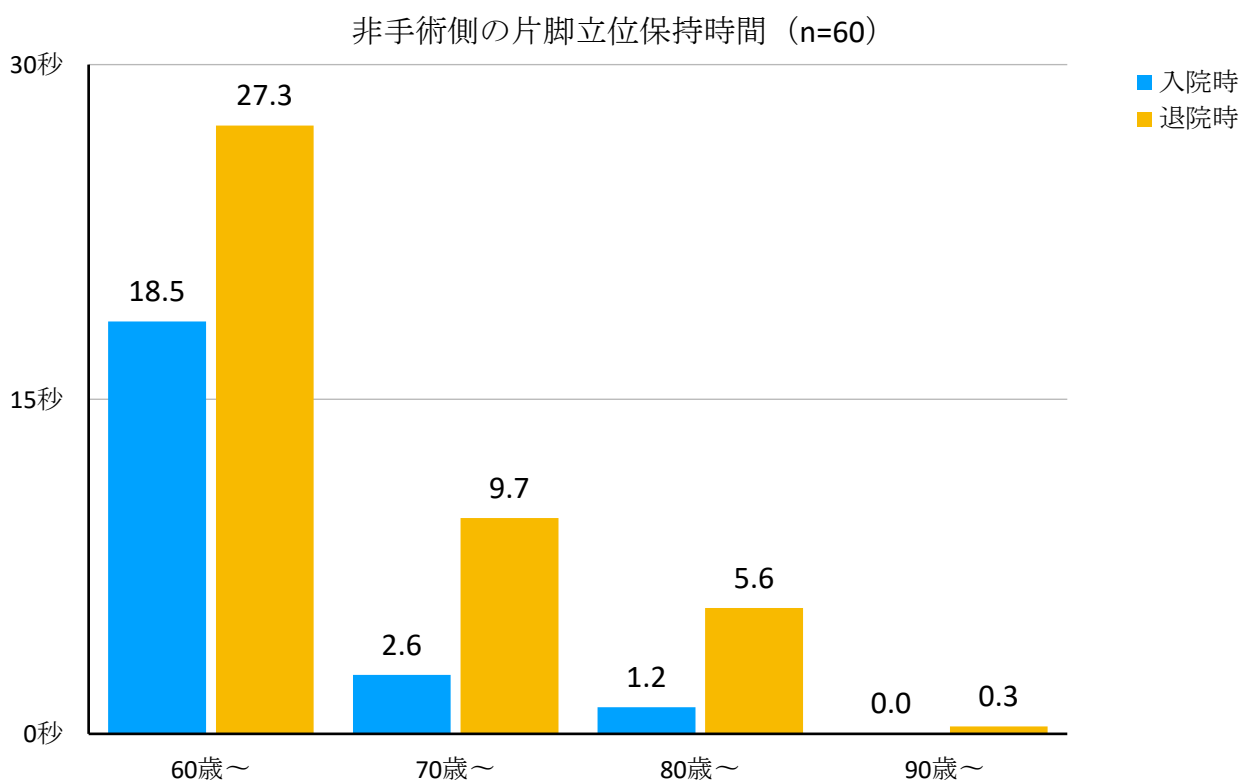
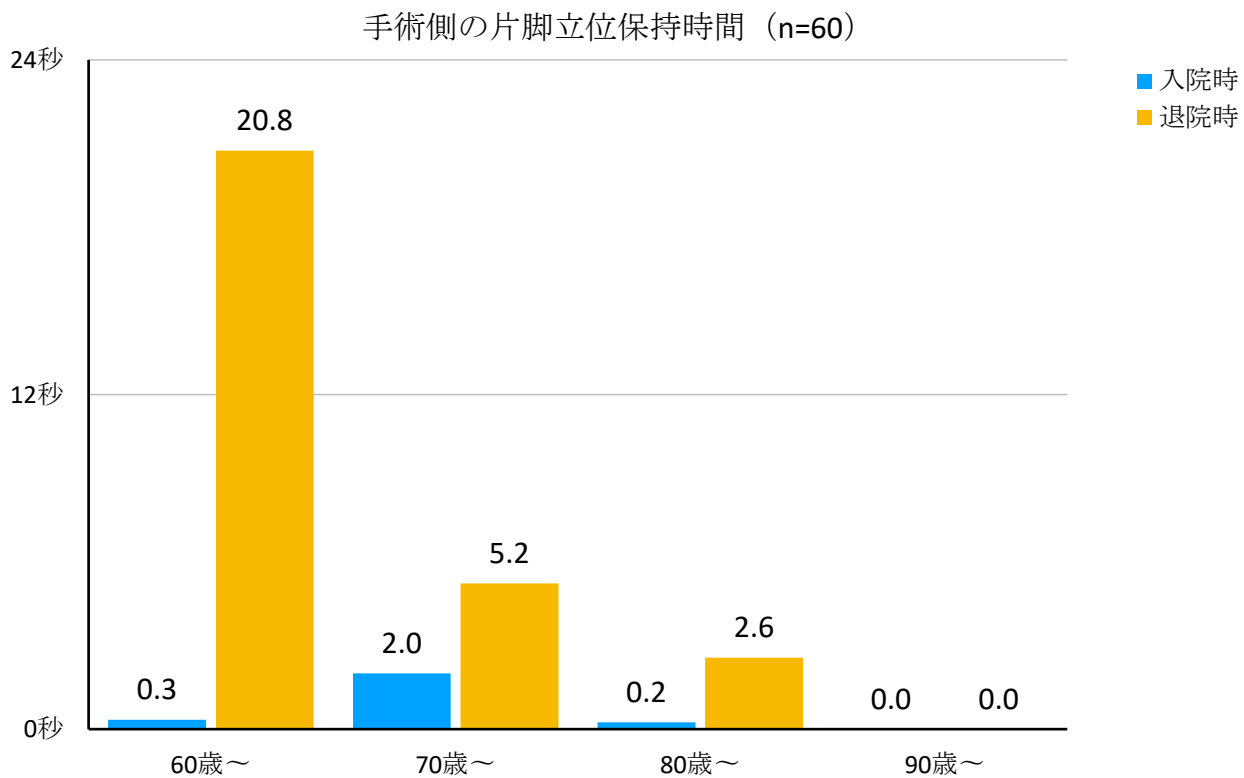
## 6. 筋肉量の変化

体組成計を用いて計測した、全身の筋肉量。



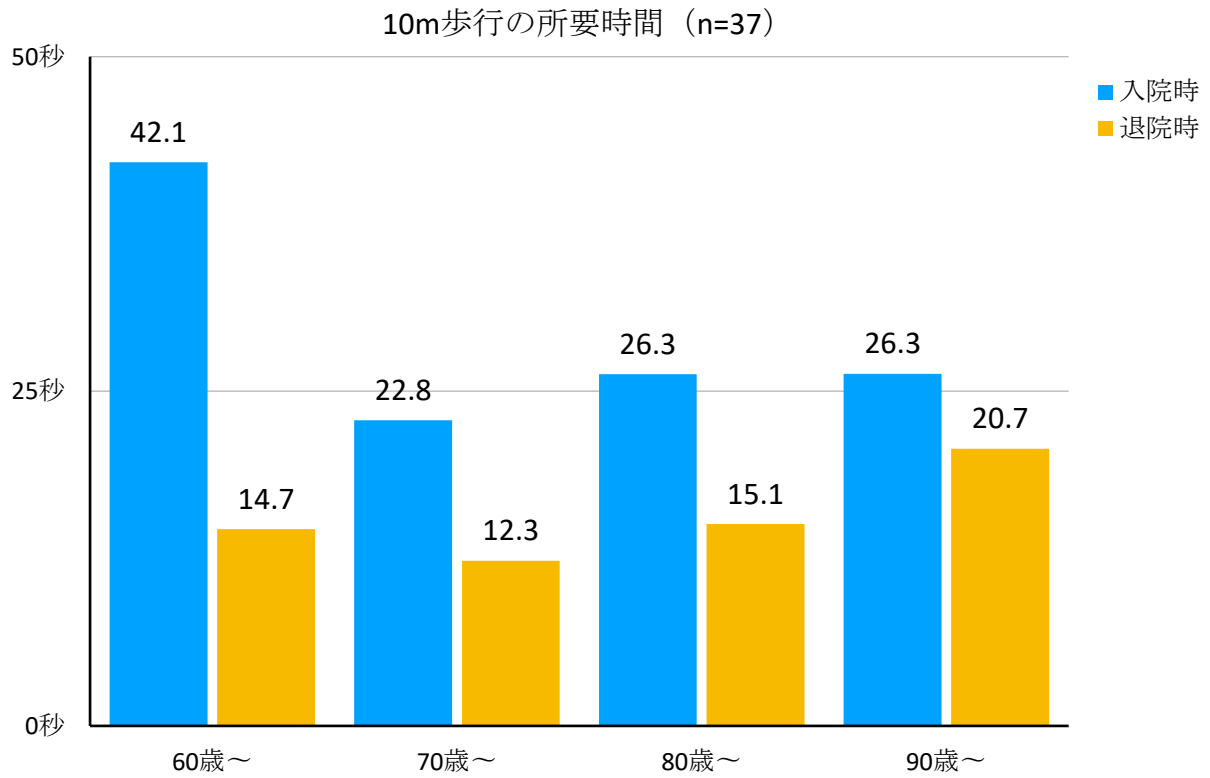
## 7. バランス能力

片脚立ちを保持できる時間を、手術側と非手術側で計測した。



## 8. 歩行能力の改善

10m の距離を歩くために要する時間を計測した。





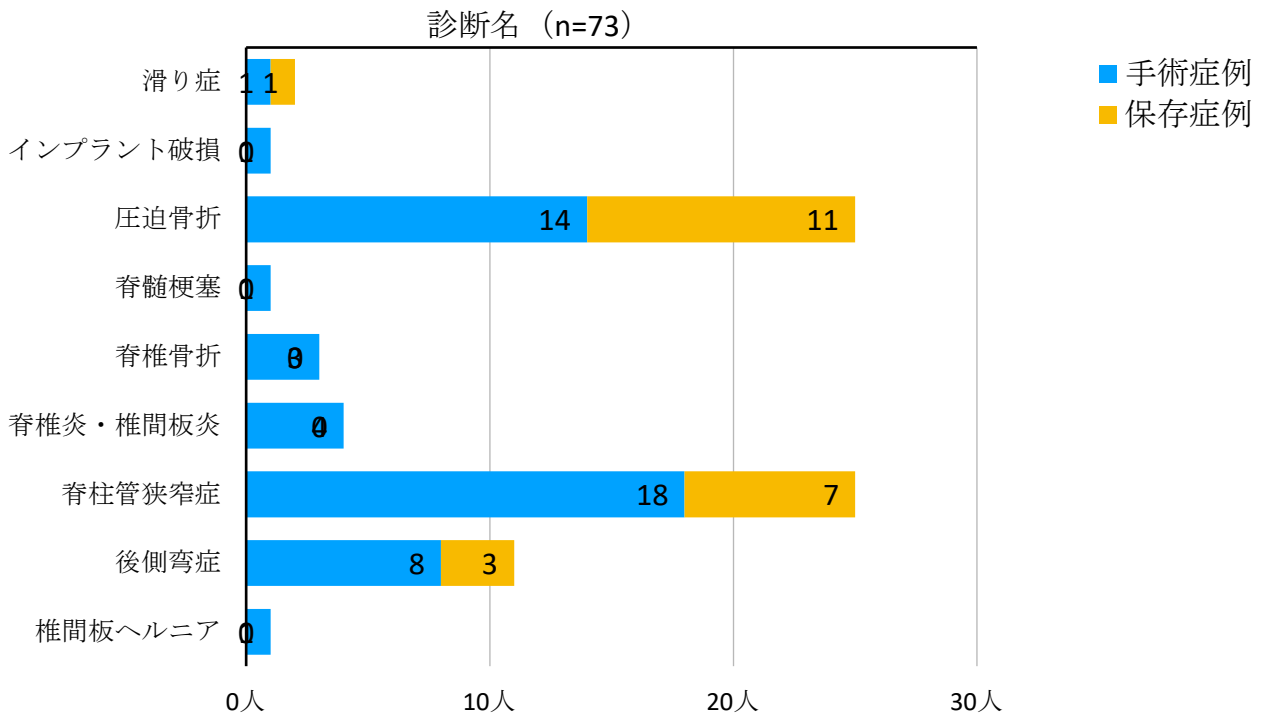
## 東京都リハビリテーション病院

一般病棟 理学療法部門 臨床指標 2020年～2022年

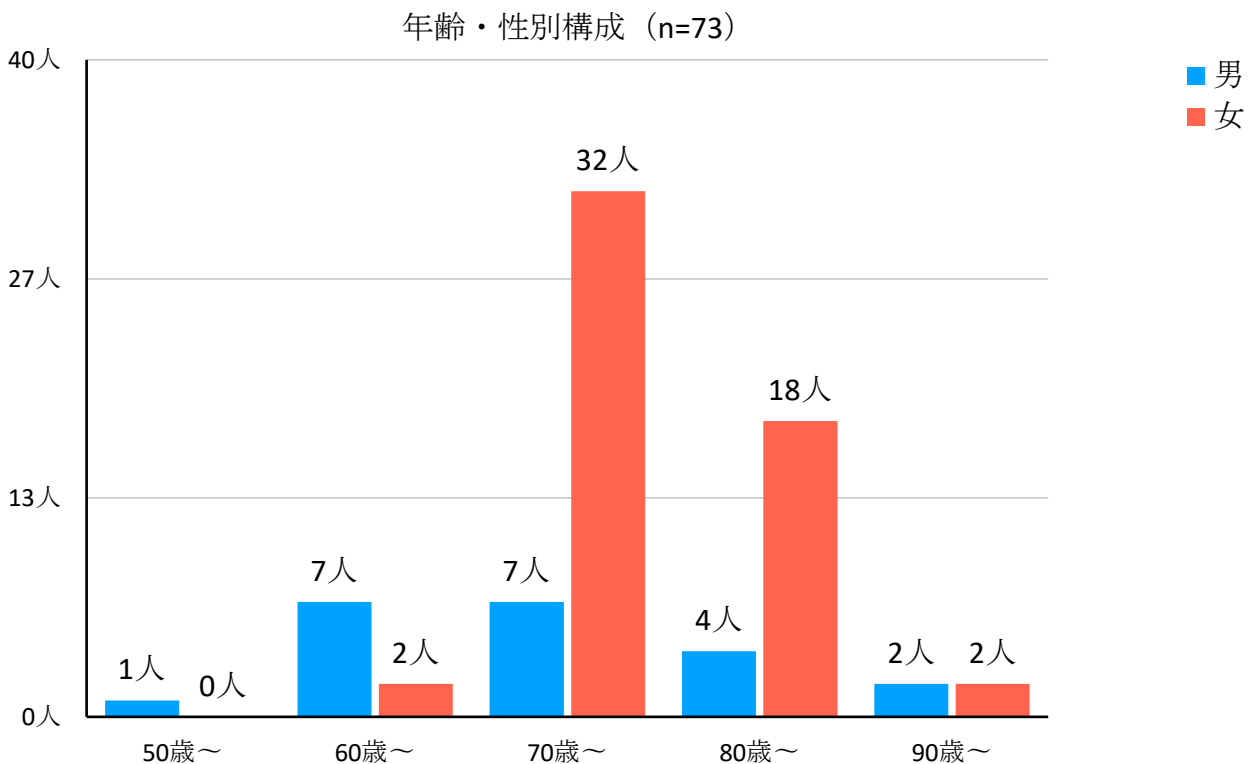
### 【 脊椎・脊髄疾患 】

\* 脊髄損傷により回復期病棟へ転棟した症例を除く

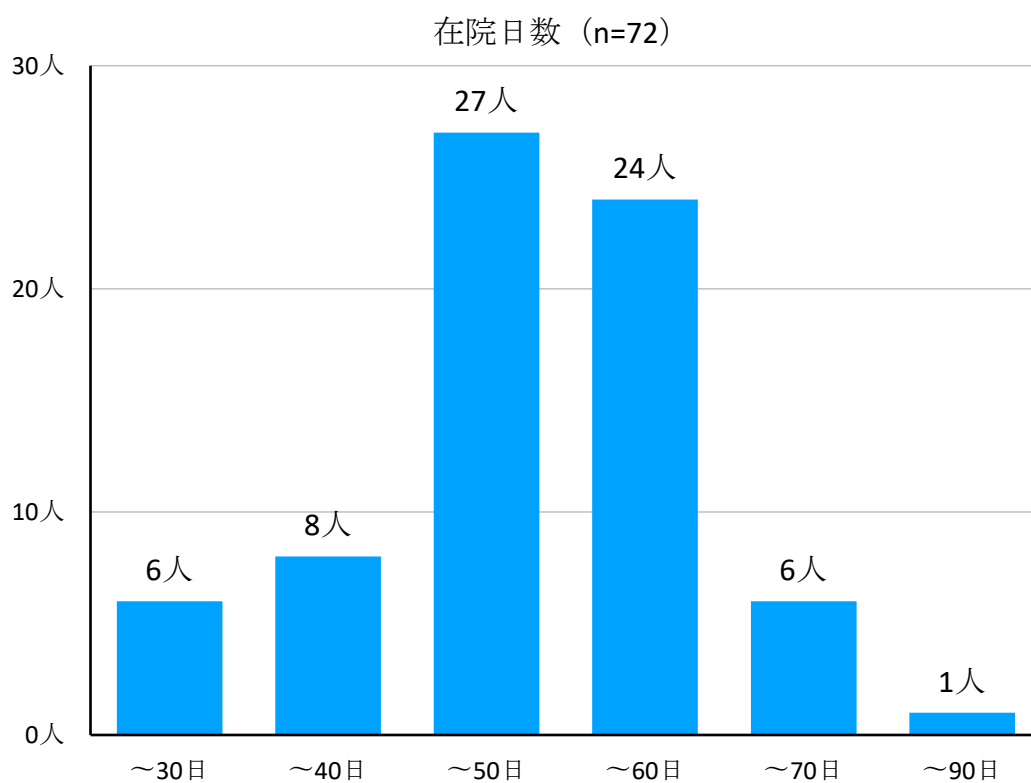
## 1. 疾患別患者数



## 2. 年齢・性別構成

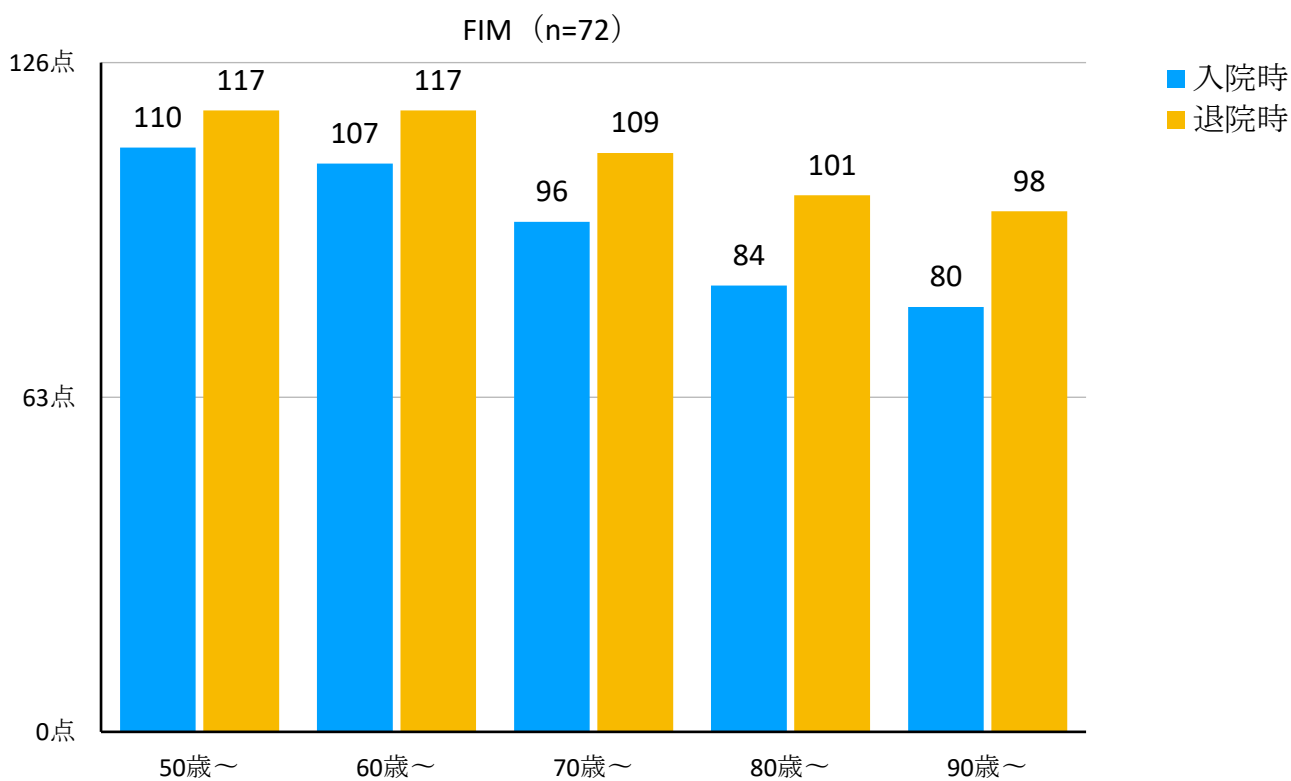


### 3. 在院日数



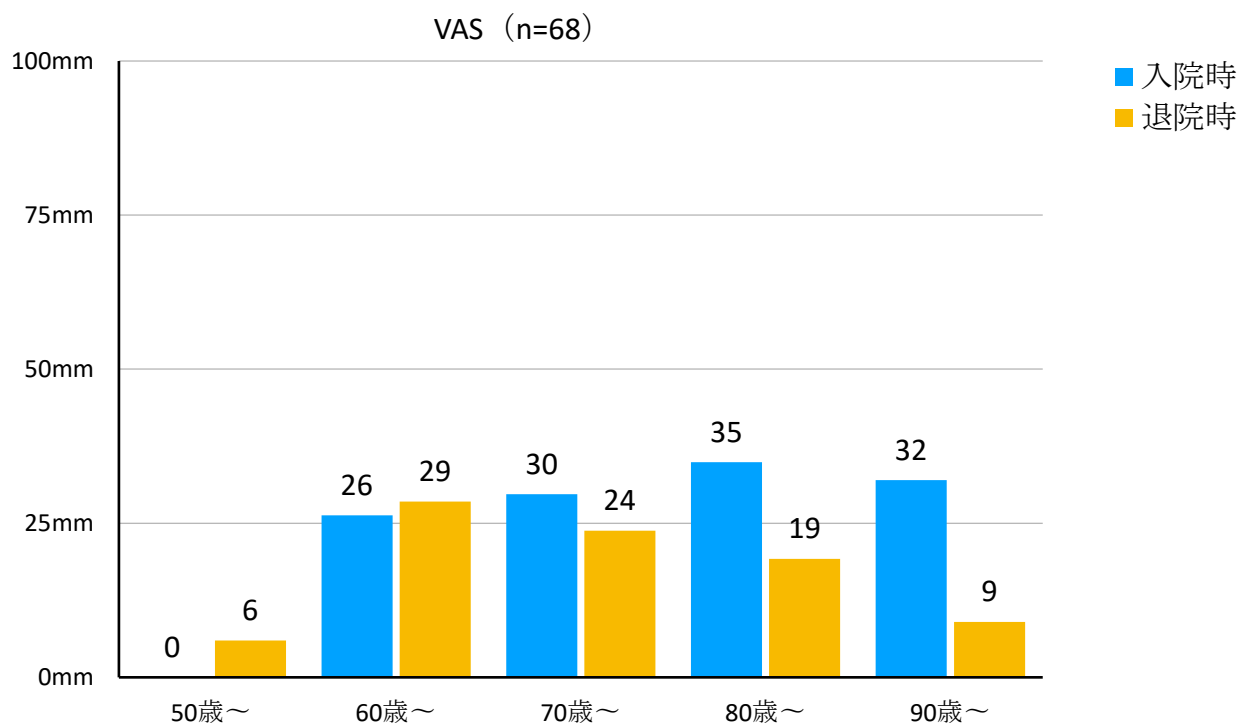
### 4. 日常生活の改善

日常生活の自立度の指標である FIM (Functional Independence Measure) の値。126 点満点で評価され、退院時には平均で 17.5 点改善した。



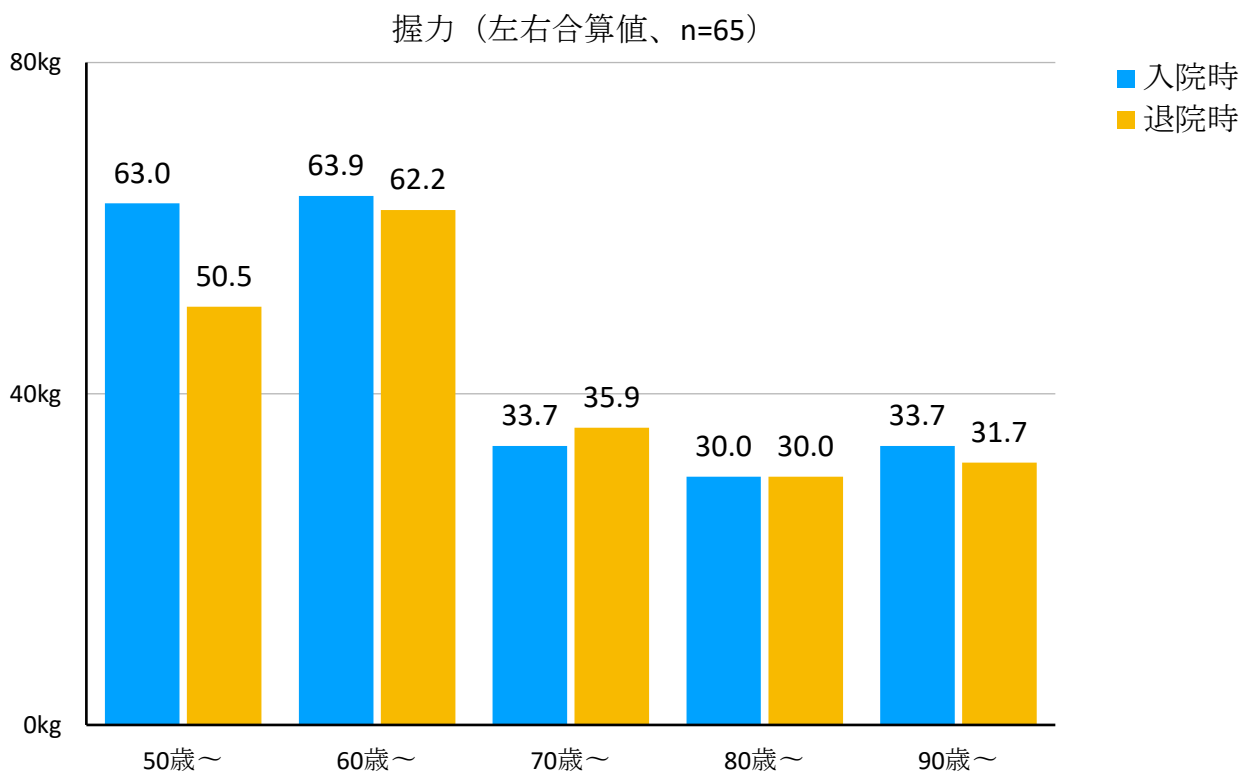
## 5. 痛みの改善

痛みの評価指標である VAS（Visual Analog Scale）の値。痛みを 0mm から 100mm の直線で評価し、数値が大きいほど痛みの程度が強い。



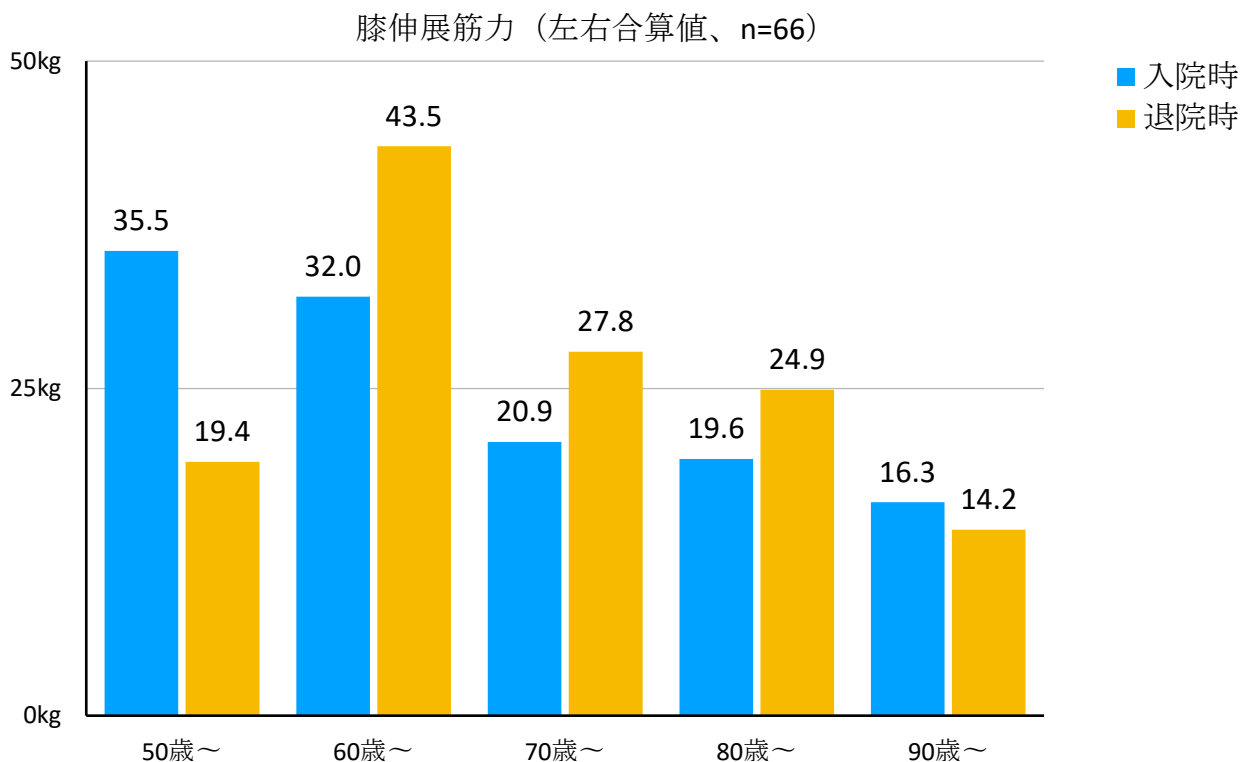
## 6. 握力の変化

握力計を用いて計測し、左右の握力を合算した値。



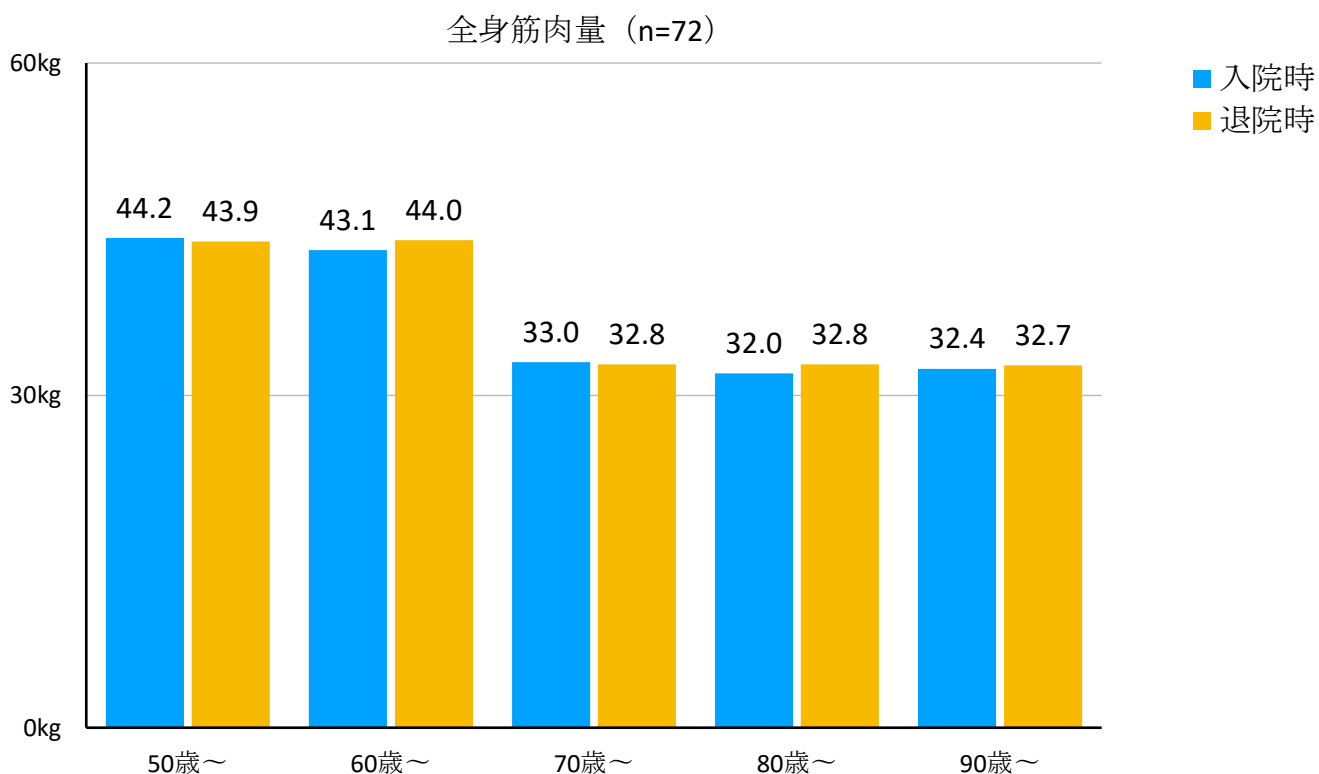
## 7. 膝伸展筋力の変化

ハンドヘルドダイナモメーターを用いて計測し、左右の膝伸展筋力を合算した値。



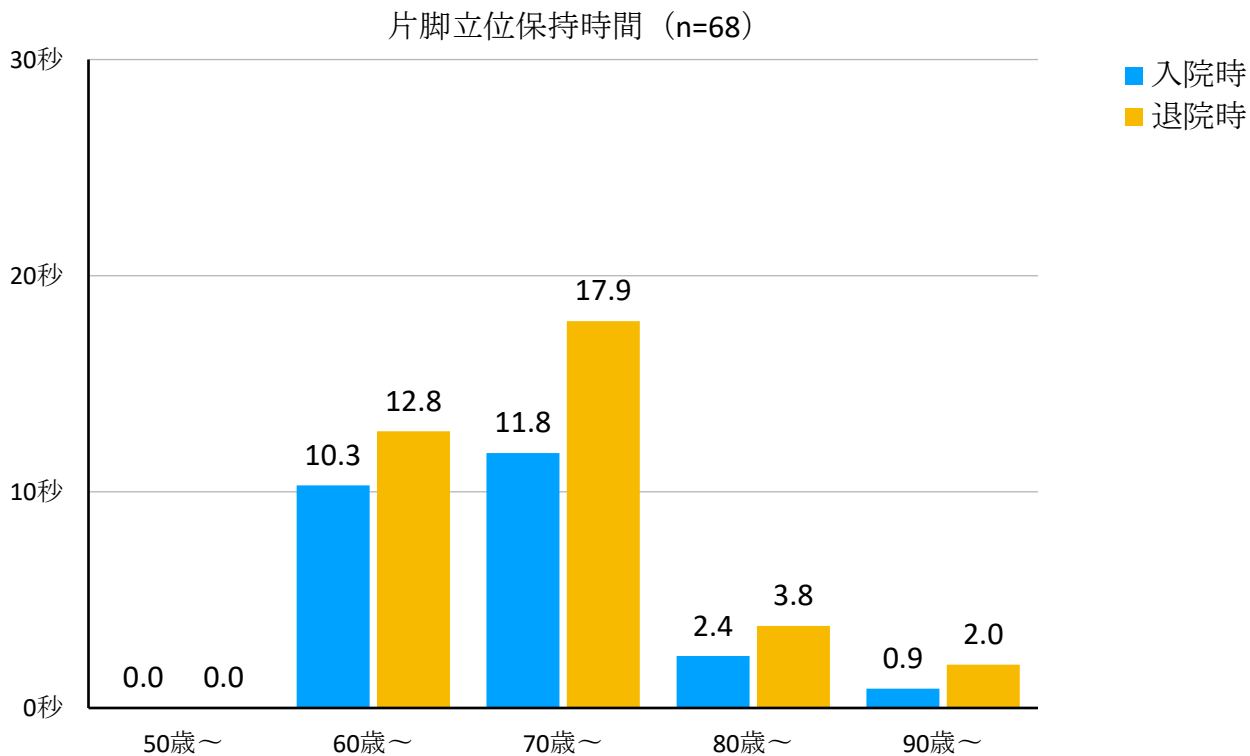
## 8. 筋肉量の変化

体組成計を用いて計測した、全身の筋肉量。



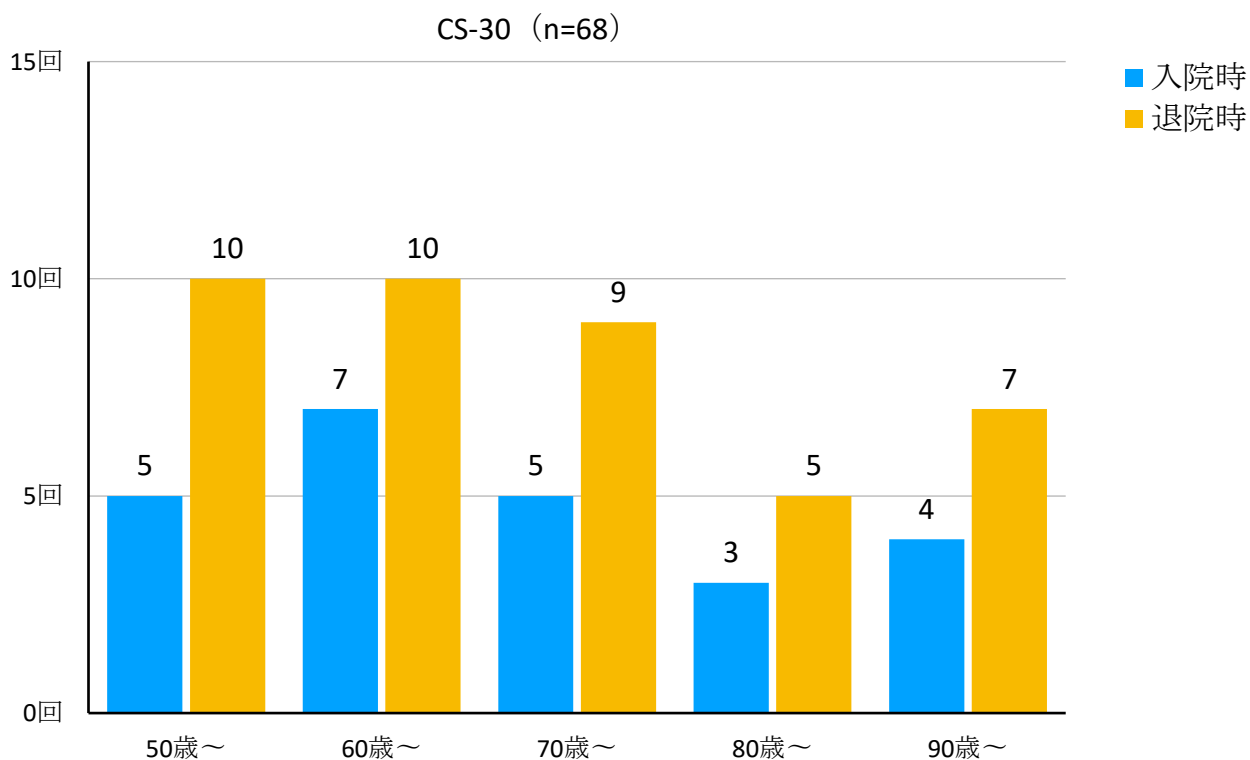
## 9. バランス能力

片脚立ちを保持できる時間を左右で計測し、長い時間保持できた側の値を示した。



## 10. 立ち上がる能力の改善

30秒間で何回立ち上がることができるかを評価する、CS-30を計測した。



## 11. 歩行能力の改善

6分間で歩ける距離を計測した。

